



城北中学校だより

令和7年2月14日 第8号 文責（末次）

## 城北の五心（明るい心、感謝の心、正しい心、思いやりの心、美しい心）

学校教育目標「**将来の夢の実現に向け、高い志と意欲をもって学び続ける生徒の育成**」

今年の「立春」は2月3日でしたが、「♪春は名のための風の寒さや～（早春賦）」の歌が思い出される今シーズン最強の寒波到来！でした。

年末は、学校評価に関するアンケートにご協力くださりありがとうございました。結果につきましては、2月6日開催の学校評議員会における協議で、生徒、教師それぞれのアンケート結果とともに確認いたしました。今後、今年度の学校評価についてはHP等でお伝えいたします。

さて、生徒対象のアンケートでは、授業に関するものが7項目あります。そのうち、『学び合い』は楽しいですか？、「授業での『学び合い』の活動に活発に取り組んでいますか？」という2つの問いについて、肯定的な回答の割合がどちらも94%でした。そこで、今回は『学び合い』についてご紹介します。

### 「学び合い」は、子どもたち同士で主体的・対話的に学習することを目指す授業です。

公教育に携わる私たちは、「主体的、対話的で深い学び」であるかという、3つの視点を踏まえた学習活動を目指すことが求められています。もっと具体的に述べますと、以下のような内容となります。

- 子どもたち自らが自分の生活や社会とのつながりを意識して、学習に課題意識をもって取り組む
- しっかりとした知識を身に付け、自分の考えをもちながら、他者と交流してそれを広げたり深めたりする
- 各教科を学ぶ意義に楽しみを見い出したり、社会が抱える課題にどうやって取り組むかを考えたりして実践する



本校では、この視点を踏まえた学習を実現するために『学び合い』に取り組んで10年以上になります。

『学び合い』では、まず、その時間内で達成すべき課題（めあて）が提示されます。そのとき、達成することでどのような力が身に付くのかということや、課題について学習することの必然性を教師と生徒で共有します。また、その課題を「誰一人あきらめず」「クラス全員」が達成することを確認します。そして、子どもたちは課題達成に向け、他の子どもたちに分からないところを尋ねたり、分からない子に教えたりします。そのために、授業中に席を離れるなどの動きを伴う学習活動を行うのですが、長らく一斉授業が中心だった日本の学校現場しか知らない方（教師を含め）は、初めてこの光景を見るとびっくりされます。

『学び合い』は、教師が何もしないという誤った伝わり方があります。しかし、それは違います。教師は1時間の授業で子どもが何を身に付けるのか、何ができるようになるのかを考え、授業のめあてとして提示します。また、どこまで達成できたらよいかという評価規準を子どもたちに示して、授業後に評価を実施し、到達していなければ補足説明をするなどといった指導を行います。全員がめあてを達成するために、子どもたちの関わりの様子をじっくり観察し、学習活動が滞っていれば誰がどのように動くべきかを助言します。何よりも、『学び合い』によって学習の成果が上がるのは、生徒一人一人が尊重されている集団においてであるので、教師は、子どもたち同士が信頼し合える学習集団づくりに日々粘り強く取り組まなければならないのです。

## 2月4日、2年生による立志式



2月4日は、城北中学校2年生のための立志式が開催されました。強い寒気で厳しい寒さの平日の午後だったにも関わらず、各クラスとも多くの保護者の方々がご参加くださり、ステージで宣言する「志」を見守ってくださいました。

また、呼名する担任の先生方の一人一人を見つめるまなざしはとても柔らかく、成長と頼もしさを実感していることが伝わってきました。

江戸時代末期の長州藩、現在の山口県で松下村塾を開いた吉田松陰は、心に決めた目標に向けて進むとする気持ちを「志」とし、その志を大切にしながら、日々実行していました。また、「悔いるよりも、今日直ちに決意して、仕事を始め技術をためすべきである。何も着手に年齢の早い晩い(おそい)は問題にならない」とも述べています。志を決め実行する行動力は、何歳になっても持つことができ、時には成果が得られなかったとしても、あきらめず試行錯誤しながら生きていくことの大切さを実感する言葉です。

## 令和7年度より城北中学校はコミュニティスクールとなります

地域の住民、保護者等の学校運営への参画、支援及び協力を促進することにより、地域及び小中学校がその教育力を相互に高めて、子どもたちの豊かな学びと育ちの創造を目指します。

(佐賀市教育委員会パンフレットより)

城北中では、令和7年度より、学校運営協議会が設置され、コミュニティスクールとしての取組がスタートします。校区内では、若楠小学校が先んじて令和4年度より設置されていましたが、本校も新設置に向け、準備を進めています。

詳細につきましては、PTA 総会などの機会にお伝える予定です。

**【学校運営協議会設置校の声】**

**見聞したこと**

- 各団体や個人が地域や学校の課題や要望について、地域の方々と情報交換や情報共有することを通して、解決に向けた様々な取り組みが盛んに行われている。(地域)
- 「この地域でどういう子どもを育てたいのか、そのために小・中学校9年間をどう送るか、いつか卒業生が活躍するかなど、その先の未来志向が強く地域の力も必要」という意識が学校・家庭・地域一貫して考えられるようになってきている。(保護者・学校)
- 学校だけでなく地域の方との交流もあり、いろいろな方々からの中で、入学前より知識や思いやりが蓄積できていると感じる。(保護者)
- 保護者や地域と学校の関係がより良くなる。保護者や地域の協力、教育環境整備、入用や不登校等への対応において、保護者や地域住民による学習支援・学習活動が盛んになる。(学校)
- 「生活利」や「総合的な学習の時間」を中心に、地域学校協働活動推進員と連携を取りながら「ふるさと学習」を進めることができている。(学校)
- 地域のボランティアや市民団体など、地域の人の一助一力を受けたり、委員の配置を考えたとしても楽しかったし、地域の人と関わり合えたのがうれしかった。(小学生)
- 昼下校の時に地域の人も、あそびができるようになった。(小学生)
- 地域の伝統を守るために、多くの人が協力して頑張っていることがわかった。自分も地域に貢献したいと思った。(中学生)

**課題とその対策**

- 教育環境等の改善のために、学校側からもっと進んで地域へいろいろな要望をされてよい。(地域)
- この学校ならではの、地域の特色を活かした教育をしようと考えてほしい。(保護者)
- 【対策】学校の活動だけでなく、日々の授業においても「ふるさと」「地域」を題材とした授業のアレンジを行うことができるよう、委員がもっと地域を知る機会を設ける。
- 先進事例などを見るなど分科の活動の広がりも参考になる。一気に活動を広げるのは難しいとしても、年々参加の活動の拡大・精選について検討することが必要である。(地域)
- 【対策】新たな行事を実施するのはなく、「学校と地域」「PTAと地域」などでの役割分担をとり、ボランティア募集を互いに呼びかけて、協力体制をつくらせる。
- 活動メニューや授業の選定が求められる。(地域・学校)
- 【対策】活動の継続や新たな活動の企画にも、若い人々の参加が盛んになるよう、広報活動や人材探しを積極的に行っていく。

**【制度の詳細情報は、ホームページをご覧ください】**  
 ○文部科学省ホームページ (https://www.mext.go.jp/a\_menu/shokou/community/コミュニティ・スクール\_「学校運営協議会設置校」について)

令和3年3月作成  
 佐賀市教育委員会 教育総務課  
 〒840-0811 佐賀県佐賀市百井1番10号  
 電話: 0982-48-7822 E-mail: tsukuba@city.saga.lg.jp

### サッカーボールの寄贈

明治安田生命からサッカーボールを2個いただきました。Jリーグの選手も使っているものだそうです。サッカーを知らない人にも触れてほしいというメッセージと共に始業式で全校生徒に紹介をしました。授業などで使わせていただきます。

